

くらしと絵文字2づくりを通して、自分の思いや考えを説明する力をつける。

第3学年1組 国語科学習指導案

指導者 川上 将伍

1. 単元名 くらしと絵文字2

2. 学習材 「世界の人につたわるように」(教育出版 ひろがる言葉 3年国語下)  
「くらしと絵文字」(教育出版 ひろがる言葉 3年国語下)

3. 単元について

(1) 本単元でつきたい力

本単元では、主に、小学校学習指導要領・国語〔第3学年及び第4学年〕の「C読むこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

C 読むこと

内容

- ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。  
オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

言語活動例

- ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。

本単元では、学習材「くらしと絵文字」を読み、文章全体の構成や要旨を理解する。そして具体的に挙げられている絵文字について、特長を踏まえながら自分の思いや考えを表現し、絵文字を書き換える活動を行い「くらしと絵文字2」としてまとめていく。

これらの学習を通して、説明文の構成の理解を深めながら、自分の思いや考えにあったものを表現する力を高めることをねらいとする。

(2) 単元の目標

【知識及び技能】

- 自分の考えを表現するために3つの特長にあった絵文字を見つけたり、考えたりすることができる。

(1 (1) ア)・・・㊸

【思考力、判断力、表現力等】

- 友達と「くらしと絵文字2」を読み合い、作品に対する思いや考えを伝え、友達や自分の作品のよいところに気付くことができる。(2B (1) オ)・・・㊸

- 「くらしと絵文字」を読んで、絵文字の特長や筆者の伝えたいことを叙述を基に捉えることができる。

(2C (1) ア)・・・㊸

【学びに向かう力、人間性等】

- 学習の見通しをもち、自分の学習進度に合わせながら学習を調整し、学習したことを基に粘り強く自分の考えを「くらしと絵文字2」に表現しようとしている。・・・㊸

### (3) 指導観

[見いだす]

□本単元(本時等)の目標(めあて・ねらい)を児童に明示する。

①単元の目標を知り、学習の見通しをもつことで主体的に学習する態度を引き出す。

本単元の第1次「くらしと絵文字」の学習では、はじめ・中・終わりの構成や筆者の要旨が文章の後半にある尾括型であることを共通理解していく。第2次で教師作成のモデル「くらしと絵文字2」を提示する。「くらしと絵文字2」の構成については、学習したことをもとに作成していくため「はじめ・中・終わり」とし教科書の「くらしと絵文字」と同様の構成とする。書く内容についても子どもたちの抵抗感を無くすために、はじめ・終わりの部分については、筆者の考えを書き写したモデルを提示する。中の部分では、自分の思いや考えにあった絵文字の書き換えを行ったモデルを提示する。そして、教師が選んだ・作成した絵文字について思いを語る。その際、本から選んだ絵文字であればどのような点が教科書の絵文字よりわかりやすかったか伝えるようにする。自作の絵文字であれば、よりわかりやすくするために工夫した部分を伝えるようにすることで「自分もつくってみたい」という子どもの思いを引き出したい。その他にも、書く用紙を選択できるようにマス目・罫線のものをモデルに取り入れる。

子どもたち全員が同じタイミングでつくり始めることはなかなか難しい。表紙をつくる子ども、はじめの文を書く子ども、書き換える絵文字を見つける子どもなど様々な進度で学習を進めていくことが考えられる。だからこそ、子どもたちとつくった学習計画を教室に掲示することで、学習の見通しをもたせ主体的な学びにつなげていきたい。

[自分で取り組む]

□児童が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりする時間を確保する。

②自分の思いや考えを表現し、「くらしと絵文字2」を作成する。

色々な絵文字に触れるために館山市図書館より絵文字に関する本を借り、教室に「ミニ図書館」として借りた本を設置する。絵文字の書き換えを行う際に、多くの絵文字を見ることで、より自分の考えに近い絵文字を選ぶ選択場面をつくることをねらいとする。また、絵文字のイメージをもつことが難しい子どもにとっては、実際にある様々な絵文字を見ることでより自分の考えを表現することに近づくと考える。それでも、書き換える絵文字を決めることが難しい子どももいるだろう。そこで、子どもが興味・関心をもったことを聞くなど教師との対話や教師モデルを参考にするなどの手助けをしていながら「くらしと絵文字2」の作成時間を十分に確保していく。

[広げ深める]

□児童が自分の考えを伝える場面を設定する。

③「くらしと絵文字2」を互いに読み合い、自分の思いや考えを交流することで考えを広める。

「くらしと絵文字2」が完成したら、ライティング・カンファレンスの手法を用い、意見や感想を交流する。ライティング・カンファレンスでは、質問を通して自分の「くらしと絵文字2」に対する思いや考えを語り、作品の良さや工夫した点を改めて実感させたい。また、お互いの作品を認め合いながら、同じ絵文字を選んでも違う考え方をする場合があるため、友達の作品に対する思いや考えを聞くことで、自分の考えを広めたり深めたりする。

[まとめあげる]

□児童が板書やノート、作品等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場面を設定する。

④国語日記を書き、学習について振り返る。

国語日記(わかったことや学習の中で工夫した点)を単元中に随時書かせるようにする。また、単元の最後には、ア、「くらしと絵文字2」をつくって、どんなことを思いましたか。イ、この学習を通してできるようになったことは何ですか。の2観点で振り返りを行う。そうすることで自分の活動を客観的に振り返り、自己肯定感を高めるとともにメタ認知能力を育成していきたい。

4. 全体指導計画（11時間扱い）

次	時	主な学習活動	○教師の支援 ☆評価（方法）
第一次	1	着語読みをして本文の構成を理解する。 ・身のまわりには、様々な絵文字があることを知る。 ・着語読みを行う。	○身近な絵文字を提示することで絵文字に対する興味を高める。 ○着語読みで本文のおおまかな内容を捉えさせる。 ☆本文が始め・中・終わりの構成であることを理解し、筆者の要旨を考える。（㊟発言・ノート）
	2	絵文字の3つの特長について理解する。	○中心となる文の後に具体例が書かれていることを理解させる。
	3 4	・中心となる文～具体例という文章構成に気を付けながら3つ特長を考えていく。	☆絵文字の3つの特長について理解することができる。（㊟発言・ノート）
第二次	5	教師モデル「くらしと絵文字2」と出会い、単元のゴールを知り、学習の見通しをもつ。 ・教師モデルを分析し、どのようなことが書かれているかを考える。	○モデルを提示し、本単元のゴールを伝える。 ○教師モデルには、どのようなことが書かれているか子どもとの対話を通して考えさせる。 ☆単元のゴールと見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。（㊟発言・日記）
	6	「くらしと絵文字2」をつくる。	○様々な本を用意し、色々な絵文字に触れることができるようにする。
	7	・図書館から借りている本、自分の考えた絵文字	○特長にあった自分なりの絵文字を見つけたり、考えたりできるよう助言する。
	8 9	などを「くらしと絵文字2」にまとめる。	○自力で書くことの難しい子どもには、教師モデルを見せたり、教師と対話をしたりしながら考えを整理していく。 ○用紙には、マス目が入っているものや罫線だけのものなど子どもに選択させる。 ☆特長にあった絵文字を見つけたり、考えたりし表現することができる。（㊟㊟くらしと絵文字2・日記）
第三次	10 本時	友達と作品を読み合い考えを交流する。 ・「くらしと絵文字2」を読み合い、自分の考えを伝える。	○カンファレンスの質問事項に沿って、自分の考えを伝えさせる。 ☆「くらしと絵文字2」づくりを通して、できた作品に対する思いや考えを伝え、友達や自分の作品の良さに気がついている。（㊟発言・日記）
	11	学習のまとめ ・以下の学習の振り返りを行う。 ア、「くらしと絵文字2」を作って、どんなことを思いましたか。 イ、この学習でできるようになったことはなんですか。	○2観点で振り返らせることで、達成感や成就感を味わわせるとともに、自己の成長に気付かせる。 ☆単元全体の学習について振り返ろうとしている。（㊟ノート・発言）

本時の指導（10／11）

(1) 目標 「くらしと絵文字2」づくりを通して、できた作品に対する思いや考えを伝えることで友達や自分の作品のよさに気付くことができる。 【思考力・判断力・表現力】B（1）オ

(2) 展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問・子どもの反応	○教師の支援 ☆評価（方法）
3	1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 友達と作品を読み合い、自分の思いや考えを伝えよう。	○迅速に学習問題について確認できるように学習計画を基に学習問題に導く。 ○説明文の構成図や絵文字の特長を掲示しておく。
5	2. カンファレンスの流れを確認する。 ・お互いの作品を読む。 ・質問し終えたらほめほめタイム行う。ほめほめタイム終了後に質問者を交代する。 ・お互いの質問が終わったらフリートークを行う。	カンファレンスの質問事項 ① 自分でつくったものは何点ぐらい？ ② なんで？ ③ とくに工夫したところはどこ？ ④ その工夫はうまくいった？ ⑤ 作っていて何かなやんだことはある？ ～ほめほめタイム～ ～フリートーク～
3 2	3. カンファレンスを行う。	○子どもたちが質問事項を確認できるように掲示する。 ○片方の質問が終わったら質問者を交代することを伝える。 ○自分の作品の色々なよさに気付かせるために3人以上と話をさせる。 ○1組目のカンファレンス終了後フリートークで出た話題について共有しそれ以降の話題の手助けとする。 ○会話の進まないペアについては、机間指導しながら助言する。
5	4. 国語日記を書く。 ◎友達と交流してどうでしたか。 ・友達の工夫したところがわかりました。 ・自分の気付かないところを褒めてもらって、新しく作品のよさに気付きました。 ・友達の絵文字の描き方がとても上手で、何を表しているのかがわかりました。	○机間指導をし、子どもたちが書いた内容を把握する。 ○机間指導しながら、自分の考えを書いている子どもを賞賛する。 ☆友達と作品を読み合い、友達や自分の作品のよさに気がついている。 (☺ノート・発言)